

Save The Tropical Forests

アース・デイ

森の通信

45

1997.9.23



Hutan

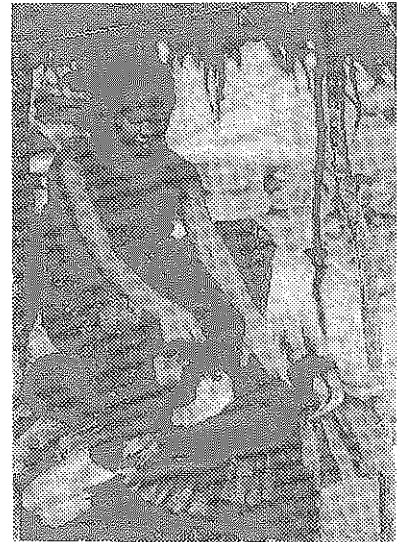
CONTENTS

1997.9.23

- 3 ウータン10周年記念パーティ PHOTO 集
- 4 緊急行動/サラワク先住民への相次ぐ人権侵害
- 6 自治体キャンペーンアンケート集計と評価ー。西岡良天
- 8 ウータン・ニュース 12 全国市民会議報告②
- 9 連載④ カサダの森林地帯と先住民の村を訪ねて・黒田洋一(JATAN)
- 13 削減委員会「建築部」報告～アンケート～
- 14 連載・山からの便り「炭焼き百姓はおもしろいなあ」・市井晴也
- 17 つくり手からの家具のお話⑥・永田健一
- 18 ウータンへのお便りから
- 19 ウータン新商品のぞあんない

【ウータン活動報告】

- 97.5.20 廣面熟帯木材自研委員会(以下 削減委と略)全体会議。
- 5.31 東京にてサラワクキャンペーン委員会など主催の「熟帯
- 6.1 林保全のための全国会議」へウータンより西岡、井下、
- 荒木が参加。
- 6.17 「ウータン」44号 発送。
- 6.23 国連総会で森林問題について会合。ラベリンブ問題を
- 除いて「森林保全」論議に進展なし。
- 6.25 西岡、大面井護士で大阪府下自治体へ依頼した「熟帯
- 木材使用削減、環境基本計画案についてのアンケート」
- の集計・課題につき記者会見(大阪府方にて)。
- 6.28 ウータン10周年記念イベントを豊中国際交流センター
- にて催す。
- 7.5-6 「殺打族」下草刈りなど 丹波天山で催す。
- 7.6 削減委 全体会議。自治体部会会議。
- 7.13 削減委、家具部会会議。
- 7.25 ウータンは大阪府、枋方市などへ話し合い要請を以頼。
- 8.8~ サラワク・スタディツアーへ荒木参加。
- 8.16 徳島の猪俣氏の案内で剣山スーパー林道など視察。
- 9.7 西岡、永田参加。
- 9.7 「COP3」運営委などに参加。西岡。
- 9.9 削減委、全体会議。
- 9.19 削減委、自治体部会会議。
- 9.20 国産材住宅推進協会主催の「森のコンサート」に参加。
- 9.22 ウータン、CASAなどで大阪府環境政策課などと、
- 「環境基本計画について」の話し合い。



▲ ボルネオで希少な無
タイヤヨモフアン族の
大切な食料です。

SARAWAK

◆ 陸稲の穂の部分だけを収穫する「穂摘み」。直射日光
の中での作業はきついが、半年以上に及ぶ農作業の日々
がやつと報われる。

[photo & word] 峠 隆一 [環境ライター]



×デタイ、×デタイ、Tニガメデタイネン、チモ ×デタイネイ

7-7 10th 記念 PARTY!

HUTAN 結成10周年 パーティ

6/28
afternoon!

準備不足といわれながらなんとかやりました。思ってたより多くの友人たちに来ていただき、又、カンパもいただき大赤字とかくごしていたSTAFFは感謝へでした。本当にアリガトウ!!

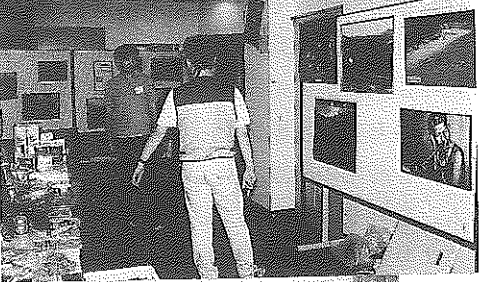


photo: Fukushima

求む緊急行動！ サラワク先住民族への相次ぐ人権侵害

7月下旬、東京のサラワク・キャンペーン委員会より、「農場開発に反対するサラワクの先住民族イバン人が不当に逮捕された」という情報が届きました。それに基づき同月、ウータンから「緊急のアピールハガキ」を会員の一部の方に送付しました。

9月、この件とその背景に関する追加の情報が、サラワクキャンペーンより送られてきました。商業伐採や農場開発に反対する先住民族への不当逮捕という事態は何回も起こっており、被害を受けた先住民族の人たちは600人を越えるとのこと。

【今まで分かっていた情報の内容】

1997年6月、マレーシア国サラワク州ボン川にあるイバン人の先住慣習地で、自分たちの慣習地に造られようとしている油ヤシ農場の建設計画に抗議をしている人人、女性9人を含む42人が警察と警察隊により逮捕されました。さらにその後、村長を含む3人のイバン人も逮捕され、逮捕者は45人にも達しました。

殴ったり蹴ったりマシンガンで小突いたりという逮捕時のひどい暴力と拘束下での医療の拒否、イバン人の言い分を全く聞かない不正確かつ不公平な治安判事裁判所による裁判の進行など、嫌がらせの度を越したひどい仕打ちがなされました。

⇒この時点の情報に基づいたウータンの「アピールハガキ」行動が、皆さんに要請されました。

【事前の情報と事後の情報】

まず、この42人は五月雨式に、家族らの努力によって最終的に7月12日に全員が釈放されました。

その前の今年3月、商業伐採に反対する4人のプナン人が「伐採会社のトラックを壊した」容疑で逮捕されました。4人を含む70人のプナン人が、自分たちの慣習地で行われている伐採を止めるよう要請する手紙を会社に渡しにゆく途中の出来事でした。プナン人の訴えでは、逮捕の時に他のプナン人たちも暴力を受け、また拘束中も殴る蹴るなどの暴力を受け、その上医療も拒否をされ、十分な食料、水さえ与えられない扱いを受けたと言っています。そして当初の容疑とは異なる「不法集会」で治安判事裁判所で起訴され、すぐに釈放されましたが、その直後に今度は「チェーンソーを盗んだ」容疑で再逮捕されました。

翌4月にはイバン人とプナン人の慣習地で、9人のイバン人が逮捕、拘束されました。慣習地を油ヤシ農場に造成する作業を妨害したという容疑です。警察からの申し立てのみで、治安判事裁判所が判決を下しました。不当ながらも高い保釈金を払って、最終的には5月に全員が保釈されています。

8月、高裁は、この3つの事件に対し「治安判事裁判所の判決の棄却」を言い渡しました。警察が正当な理由なしで逮捕をしたこと、適切で正確な取り調べが行われずに判決が下されたと判断したのです。

【情報の確認先】

さらに詳しい最新の情報を確認したい、等のお問い合わせは、全て下記へどうぞ。

・サラワク・キャンペーン委員会

☎ 03 (3954) 3510

fax (3951) 1084

【ぜひ手紙を書き送みましょう】

・マレーシア副首相 宛

〔住所〕

YAB Dato Seri Anwar Ibrahim,
Acting Prime Minister of Malaysia
and Minister of Home Affairs
and Finance
Prime Ministers Department
Jalan Dato Onn
Kuala Lumpur, MALAYSIA.

・連邦警察本部 監察長官 宛

〔住所〕

Inspector General of Police
Federal Police Headquarters
Bukit Aman
Kuala Lumpur, MALAYSIA

(ファクス+60-3-291-0707付)

〔上記2カ所は↓の同じ内容で構いません〕

- ・大規模農場開発や土地争議の影響によって、先住民族への不公正な扱い、つまり適切さのない恣意的な逮捕・拘束が何度も行われていることに、大変憂慮しています。
- ・会社と先住民族との間の民事協議においては先住慣習地に対しては先住民族の権利を尊重する、という貴国の法律を思い起こしていただきたいと思います。
- ・そして土地争議が起こった場合には、その解決は裁判所に委ねてください。農場会社が先住民族の慣習地に対する権利を主張する場合、警察は先住民族に対する裁判所命令を得るよう会社に勧告するよう、強くお願い申し上げます。
- ・また、会社が先住慣習地で不法侵害、器物損壊、不法妨害を行った場合、先住民族の正当防衛の法的権利が尊重されるよう、保障をお願いします。

・サラワク州首相 宛

〔住所〕

YAB Datuk Patinggi Tan
Sir Abdul Taib Mahmud
The Chief Minister of Sarawak
Tingkat 14, Wisma Bapa Malaysia
Petra Jaya
93502 Kuching, Sarawak, MALAYSIA.

〔内容〕

- ・大規模農場開発や土地争議の影響によって、先住民族への不公正な扱い、つまり適切さのない恣意的な逮捕・拘束が何度も行われていることに、大変憂慮しています。このような不公正が今後行われないようお願いするべく、便り差し上げます。
- ・サラワク土地調査局が、先住民族が優先権と現存の先住慣習権を有する土地慣習法に影を及ぼす暫定的な借地権を発行することは、明らかに貴国の憲法に違反していること、指摘したく思います。
- ・土地の先住慣習権を有する先住民族全員への事前の十分な説明による同意もなく暫定的借地権を与えられた会社が、指定されている先住慣習地に侵入、開拓することをサラワク土地調査局が認可しないよう、認可した場合は早急にそれを取り下げるよう、強くお願い申し上げます。
- ・人道的見地に基づき、警官や刑務所職員など法の執行者が先住民族に暴力や怪我を加えないよう、また拘束中にも医療措置が必ず受けられるよう、お願い申し上げます。

注▷乱暴な手紙ではなく「礼儀正しい、相手を説得する手紙」を送ってください。
本文は日本語でも大丈夫です。

大阪府下45自治体の「熱帯木材使用削減・環境基本計画等」についてのアンケート」集計と課題

ウータン・森と生活を考える会 西岡良夫

1. 大阪府下自治体アンケート「熱帯木材使用削減・環境基本計画等」の評価

《熱帯材削減進む大阪府下の自治体》

今年4月22日に発送したアンケートに対する回答を6月25日にまとめた。45自治体のうち33自治体(73%)から寄せられたことは大いに評価できる。それだけ熱帯林問題に対する関心が深まったと言える。

具体的に見ると、熱帯材総使用量を把握している自治体は、回答した自治体33のうち14(42%)にとどまっているのは残念。しかし、こうしたアンケートを実施したことにより、していない自治体も今後総量を把握する方向へ進んでいくのではないかと思う。設定が今後必要である。

現在、熱帯木材の使用削減を全く考えていないのは町村の自治体のみで、30自治体が何らかの形で削減している。殆どの自治体に熱帯材使用削減策が浸透したと言える。

5年前の地球サミットのあった92年6月、大阪府、大阪市、堺市、豊中市のみで、全国的に見ても10自治体ほどだったが、今全国の170自治体以上が熱帯材使用削減策を取っている。しかし、大阪府下で削減目標を具体的に定めているところが、3自治体のみで、実行性をあげるにも目標値設定が今後必要だ。

《型枠使用削減を回答した自治体の8割が認めたもの、今後建築抑制策が必要》

また、熱帯材の問題がコンパネ(型枠)のみにとどまらないこともかなり理解されてきている。熱帯材の使用削減以外の環境負荷を減らすことへの具体策は、省エネ、省資源以外はまだまだだ。特に建築抑制を行うと回答があった自治体は2つしかない。未だに“スクラップ・アンド・ビルト”から抜け切れていないのが明白だ。抜本的に公共工事を見直

すべきだ。

熱帯材の30%を使用している家具のリユーズなども組織的に取り組んでいるという段階には至っていない。イギリスなどヨーロッパでは、小さな町でも中古家具やリサイクルショップが幾つかあるのと比べると大きな違いだ。「古いもの」に対する市民ひとりひとりの意識が変わる必要がある。

《環境基本計画の実施・検討は15自治体》

環境基本計画については、策定済みのところと「検討中」の自治体は回答のうち半数で、15自治体にのぼる。このことは喜ばしいが、その策定手続に情報公開、住民参加がどの程度実施されるかなど問題があり、一旦策定さ

れるとしても、3年後ぐらいに設定目標の見直しなどをできるものでなければならない。環境基本計画が各項目を固定化することや削減設定せずに実施するならば、空洞化する恐れがある。

2. アンケート回答結果

I. 公共事業の熱帯木材使用削減について

1-1. 熱帯材把握している自治体は、14/33(42%)

大阪府、堺市、豊中市、吹田市、池田市、高槻市、摂津市、守口市、門真市、寝屋川市、八尾市、藤井寺市、大阪狭山市、泉南市と以前より使用量の把握している自治体が増えたが、もっと把握しなければ、熱帯材の総量の使用削減、環境管理が難しい。

2. 略

- 3, 熱帯材未削減の自治体で、今後削減を実施または検討の自治体は、大東市、岬町。
- 4, 熱帯材の型枠使用削減だけでなく全型枠削減が必要と考えている自治体は、 $26/30$ (87%) と非常に多くのところが考えているが、その施策の実施している自治体(大阪府のみ)は、 $1/24$ (4%) と非常に少なく、検討中は河内長野市、大東市である。
- 5, 内装材も使用削減必要と考えている自治体は、 $21/26$ (81%) と多い。
- 6, 国産の間伐材合板を使用しても良いと考える自治体は $21/28$ (75%) と、多くの自治体が熱帯材から他の代替材と、考えているように思えるが、値段の面については同額か、1割ぐらいいまでアップなら使ってもいいというのが大半である。環境に優しいものなら少しぐらいい値段が高くても使うぐらいいのことを考えてほしい。

II. 公共事業による建築物等の環境負荷への配慮について

- 1, 省エネ・省資源の施設の建設については $17/32$ (53%) とけっこう普及し始めた。各自治体が採用している内容は、コ・ジェネ施設や雨水再利用、ソーラー熱利用が多い。
- 2, 環境負荷の削減に配慮した施工の実施をしている自治体は $11/30$ (37%) で、熱帯材の型枠合板に替わるものをあげ、内容はPC工法、埋込型枠や断熱などである。
- 3, 環境負荷の削減に配慮した資材の購入については、再生舗装材などをあげているが、 $5/30$ (17%) と低く、資材購入から施工にかけての環境付加に対する配慮の方針が今後、各自治体で求められると思う。
- 4, 長持ちのする建築物の建築実施をしている自治体は、 $7/28$ (30%) と予想より高かった。大阪府、大阪市、豊中市、箕面市、茨木市、寝屋川市、枚方市、田尻町。
- 5, 建築廃棄物の抑制をしている自治体は $13/30$ (45%) と、かなり多く見られる。
- 6, 建築物の建築抑制をしている自治体は箕面市、寝屋川市のみで $2/25$ (8%)。今後、建築物の建設抑制と共に環境配慮の設計・施工、そして環境に配慮した資材の購入実施を行い、長持ちさせることが望ましい。

III. 家具のリユーズ等について

- 1, リユーズ・再利用している自治体は、 $18/29$ (62%)。まだPR的にしている自治体が多いが、これからの取組みを期待したい。
- 2, 3, 省略

IV. 環境基本計画について

- 4-1, 環境基本計画を定めている自治体は、大阪府(96年3月)、大阪市(96年4月) 箕面市(94年3月)、東大阪市(91年4月)、摂津市。

同計画を検討中は、堺市(予定99年3月)、豊中市(予定99年3月)、吹田市、茨木市(予定98年秋)、枚方市、大東市(予定98年10月)、八尾市(予定98年3月) 河内長野市(予定2000年)、岸和田市(予定98年3月)、泉大津市と10自治体である。

実施・検討中の自治体の合計は、15自治体($15/33$, 約45%)。

- 4-2, 環境基本計画策定済みまたは検討中の自治体で、熱帯木材の総量削減必要と答えた自治体は $12/15$ (80%) と、今後の取組みに期待したい。

3, 最後に

キャンペーンは、どんどん行うべきだ。自治体やいろんなところにプレッシャーにもなり、私たちも実施しなければと思う。古いものを大事にさせることこそ環境を破壊しないことだ。

COP3成功に向けて COP3 50日前行動 in Osaka

「まったなし! 地球温暖化—市民からの提案」

開催時期・10月12日(日)午後1時~午後5時まで

開催場所・地球いきいき館【鶴見緑地花博公園内】

対象 一般市民及び大阪で活動するNGO

資料代・実費1000円

主催・地球環境NGOネットワーク関西

後援・気候フォーラム・全国全国縦断連続シンポジウム

申し込み・問い合わせ・地球環境NGOネットワーク関西

電話06-222-3263

- 報告・ジェニファー・モーガン(CAN)「アメリカ政府とCO₂削減交渉と今後」
 ・井上布一(奈良産大助教授)「日本におけるCO₂削減の可能性」
 ・西岡良天(ウータン)「森林破壊も温暖化を推進する」他

対応鈍い熱帯木材使用削減対策

「ウータン」大阪府下四五自治体にアンケート

取り組みは府・大阪市・豊中市のみ

熱帯林保護の活動をすすめているウータン・森と生活を考える会(西岡

良夫事務局長)は、このほど大阪府庁記者クラブで、府下四十五の自治体

に対して実施した「熱帯木材使用削減・環境基本計画についてのアンケート

」の結果をまとめて公表した。

ウータンでは、これまで九四年の二回にわたって府下自治体に対して、自治体の公共工事などで使用している熱帯木材の使用量の把握しているが、四二%と過半数に達せず、依然自治体の多数が使用量の把握をしていないのが実情だとい



アンケート結果を発表する西岡氏(左)ら(府庁記者クラブで)

で、九二年九四年の二回にわたって府下自治体に対して、自治体の公共工事などで使用している熱帯木材の使用量の把握しているが、四二%と過半数に達せず、依然自治体の多数が使用量の把握をしていないのが実情だとい

う。一方、現時点で熱帯木材の使用削減を全く考えていないとした自治体は、

しいとしてアンケート調査を実施しているが、今回で三回目。

島本町、田尻町、四條畷市の三市町のみであり、ほとんどの自治体は何らかの形で熱帯木材の使用を削減することを考えており、取り組みをすすめている。ただ、自治体で具体的な削減目標をもって使用削減に取り組んでいるのは、大阪府、大阪市、豊中市の三つの府市にとどまっており、ウータンでは「実効をあげるためにも目標値は是非設定して欲しい」としている。

環境基本計画制定については、三つの自治体が基本計画を制定(大阪府、大阪市、箕面市、東大阪市、摂津市)、検討中の自治体は堺市、豊中市など十自治体あり、ほぼ半数の自治体がすでに制定、または検討中ということになった。基本計画に熱帯木材の総量規制を盛り込んでいるのは、五自治体で、検討中の自治体は七つにとどまった。

突然のお知らせです!
 西岡局長の報告も致します。

西岡氏は「何回もアンケートや話し合いをすれば自治体の意識も変わってくるはず」とおっしゃる。ぜひともこうした取り組みをすすめていく方針。

カナダの森林地帯と先住民の村を訪ねて

◆ 黒田洋一（熱帯林行動ネットワーク事務局長）

《北米公聴会に参加して》

昨年9月の終わりにマニトバ州のウィニペグで、「森林と持続可能な開発のための世界委員会（WCFS D）」の北米公聴会が開催され、私も参加しました。

この委員会は、スウェーデンの元首相のオーラ・ウルステンとインドネシアの元環境大臣のエミル・サリム氏が共同議長で、各国の元元首、環境大臣、現欧州議会議員、ウッズホール研究所関係者らが委員になっています。日本からは、参議院議員の広中和歌子氏が委員をしており、カナダにも一日だけ参加していました。

私は、96年3月にジャカルタで開かれた「アジア公聴会」にパネラーとして招待されており、今回は自主参加しました。この時の詳細は省きますが、これらの報告は「森林に関する政府間協議（IPF）」に提出されることになっており、各地の住民NGOらの生の声が国際的な場に提出されるというそれなりに意味のある機会であると思います。特にBC（ブリテッシュ・コロンビア、以下BCと略）州以外の州の住民にとっては、国際的にほとんど知られていない森林問題の実態が話されたことは重要なことでした。それらの話を聞くと、BC州は「まだまし」であると、ますます実感しました。

《カナダ各州の森林破壊の実例の紹介》

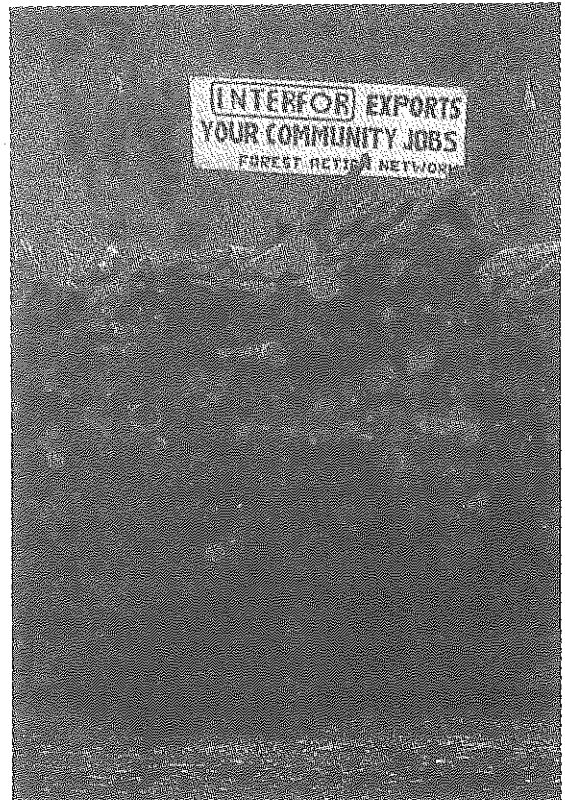
1) ニュー・ブラウンシュビック州（州面積はAlpacと大昭和製紙がアルバータに持つ森林と等しい）では、オリジナルな原生林はわずか5000haしか残っていません。

その残されたクリスマス・マウンテン地域の伐採が今大問題になっており、大勢の若い活動家が会議に参加し、絶望的な状況の中で何とか伐採を食い止めようと頑張っていることを知りました。しかし、どこの

州も歴史的に形成された木材産業、とりわけパルプ産業により、残された森林は次々切り、追いつめられていることがよくわかります。この状況をどのようにしたら止めることができるか、事態は大変深刻です。

この州も王子製紙の新聞用紙工場があるはずですし、米国という巨大市場や工場進出、北欧企業による投資などもあり、大変な問題です。

2) オンタリオ州でも歴史的に多くの森林がすでに伐採され、タマガミ地域で現地住民・NGOによる道路封鎖が展開されて、多くの逮捕者が出ているようです。米国に近い地域では、伐採された木材がそのままトラックで米国に運ばれることも少なくないようです。



地元民と環境団体が「抗議」のピケを演じた大手伐採会社の木材運搬船／ベラクーラ近郊

3) ケベック州からもグランド・カウンスル・オブ・クリーなど多くの先住民団体の代表が来ていましたが、ここには大昭和製紙も進出しており、全体として森林伐採や汚染問題もひどいようです。フランス語圏のこの州の環境問題や先住民問題は、多くの問題が山積みになっているようです。

4) アルバータ州で今、Alpac(アルパック)や大昭和と闘っている数少ないNGOであるWCWCのグレー・ジョーンズの話では、現在同社等は狂ったように伐採を進めており、環境問題の企業によるセルフ・モニタリング(つまり州政府は実施しない)制度が導入され、同州の森林の将来は、「東京」によって決定されていると言われるように、外国の巨大企業による政治経済支配がますます強化されつつある状況です。

州財政の危機から大学の教育、研究費が削除され、企業の資金援助による科学研究の支配が強化されるという憂慮すべき状況にあります。いっぽう、禍伐によるBC州の森林資源の減少、保護運動の高まりから、アルバータなどの近隣州での伐採が急増するといった問題が発生しています。三菱や大昭和などの同州への進出も、実は日本からでなく、BC州の現地パルプ会社による進出という側面が強いのです。

5) マニトバ州は、他の州と同様、保護区になっている地域が2ヶ所しかなく、草原と湖の多い北東部と森林地域の南西部に保護区がありますが、その保護区でさえ伐採が許可されている、という具合です。

この先住民(オージェブエとクリー)は、伝統的に多くの活動家を輩出し、カナダの先住民団体のリーダーが多く出ている地域で、州への影響力も大きいようですが、それでも森林伐採などの開発問題では押しまわられているのが現実です。木材産業や鉱山会社の力の大きさ、州政府との癒着があまりにも大きいのです。



《悲観的な状況》

以前、亜寒帯林のNGOの国際会議がエドモントンで開かれたときに会ったことのあるブルイット教授(マニトバ大学の亜寒帯林生態系研究ステーションを長年指導してきたカリブー学者が、NGOの集会(北米NGO森林フォーラム)に講演に来ていたので、その後自宅におじゃまして話を伺いました。カリブーなどの政府の保護政策について尋ねると、「何もしていない」と大変悲観的でした。

彼はもう正式には大学を定年で引退し、カリブーと亜寒帯林の生態系の研究者として知られる名物教授で、人類の文明史から森林問題を分析し、「生態学的な視点から文明を再構築しない限り、森林破壊は解決できない」と主張しています。

この州は、アルバータと並んで(それ以上に)、カナダで最も保守的というか右翼的な州で、資金力のない無数のNGOや先住民団体が頑張ってはいるものの、なかなか成果が上がらない状況のようです。

カナダの森林資源(百万㎡)

針葉樹	広葉樹
スプルース 7339(40%)	ポプラ 3199(57%)
マツ 4227(23%)	カバ 1160(21%)
モミ 2877(16%)	その他 1288(22%)
カナダツガ 1298(7%)	小計 5,647
その他 2532(14%)	
小計 18,273	
合計23,921	

J A T A N編「失われてゆくカナダの原生林」

《マニトバのオジェブエ民族との交流》

私たちが訪問したウィニペグから2時間ほど北のオジェブエの村では、汚染のひどいパルプ工場への反対運動の中で、経営者が経営権を放棄したため、住民が株式を取得し、自主経営して操業し、汚染対策や森林経営の改善などのいくつかの新しい試みを行っていました。ただし本当に、森林経営が改善されるかについての評価は、もう少し時間の経過が必要のようです。

サイギンと呼ばれるこの村では、スエット・セレモニーを体験することができました。これはサウナの原形のような儀式で、この地域では冬の期間に月に1~2回行われています。特に心身の治療（ヒーリング）が大きな目的で、私たちが参加したときも病気を抱えた一人の先住民の女性が治療目的で参加しました。

まずセレモニーを行うテントの外で、神様に煙草の葉などを捧げる儀式を行い、サウナで使う石を焼きます。儀式にとって重要なシダー（カナダ杉）の葉を周囲に置いておき、テントの中に座ると、再び儀式が始まります。煙草が回され、音を鳴らす打楽器のような物が与えられ、リーダーの呪文や指示にしたがって鳴らします。さらに焼けた石が運ばれ、そこにリーダーが杉の葉の入った煮え立った湯をかけます。病気治療に来ている女性は湯を体に塗ったり、飲んだりします。

最後に大量の湯を石にかけて、テントを密封すると、蒸気が一気にテントに充満し、サウナのような状態になります。土の上に座っているので、下は熱くないけれど、テント内はじわじわと熱くなり、その中で呪文のような歌が流れ、楽器を打ち鳴らします。これを何度も何度も繰り返します。さすがに最後のほうは、かなりきつく息苦しささえ感じます。かれこれ2~3時間たったと思われませんが、終わってからテントがすべて開けられ、外で終了の儀式が行われましたが、立ち上がれないでしばらく横になっていた人もありました。

しかし気分は爽快で、近代的なサウナでは味わえないものでした。杉の葉は、少し離れた森林から持ってくることで、杉以外にも様々な植物が薬用に利用されています。森林伐採の進行は、このような植物の消滅や、狩猟のトラップライン（罠猟）を破壊しているのです。

その後、オジェブエの先住民のリーダーたちと参加したNGOとの交流会がありました。私はカナダなどから大量に木材、パルプなどの資源を輸入して繁栄を続けてきた日本社会が直面している廃棄物問題や、都市空間での子どもたちなど人々の精神的な危機について話をしました。

自然からかけ離れた日本人の戦後の生き方が行き詰まっており、数千キロ離れた自然を工場加工したもの（機械、食料、木材など）に取り囲まれた私たちは、自分たちが遠くの地域で大変な破壊をしていることに気付かず、自然に生かされて生活している、という実感が持てないことをどのように解決したらよいか。私自身、日本での生活と自然との関係を再発見するのに、10年間の世界各国での調査や観察を必要としたことやその問題の大きさに悩んでいる、と話したところ、先住民の人々は大変関心を持って話を聞いて下さった。

「日本についてはほとんど何も知らないが、日本の古い伝統社会の中にその答えがあるはずだ」と「助言」されました。私も「いつか是非、日本に来て日本社会の実情を見てほしい」とお願いしました。

実際カナダの人々は自分たちの目の前の問題への対処に追われ、自分たちの資源の行く先であるアメリカや日本の持つ根本問題についての考察や実態調査をほとんど行っていない。このようなことを私たちとしては何かと手助けして、共通理解を図っていく必要があると痛感しました。

《各国の森林破壊の把握が必要》

時間不足の関係からか、少し討論する時間がなかったことが一番残念だ。林昭男さん(滋賀県短大教授・建築家)が上手くまとめてくれたが...

また新たな多くのNGO(例えば地球の友・シベリヤ・プロジェクトの仲間など)の参加もみられたが、熱帯林だけでなく他森林保護もしなければという機運が出ていたが、参加者は東京近辺の人が多かった。地方での熱帯林保護運動の盛り上がりが出ていないためだろうか。

熱帯林の各国の現状や、その他の森林破壊の現状についての報告が次回には必要と痛感した。というのは、マレーシア・サラワク州では伐採がまだまだ続いており、さらに伐採会社の大手リンブナン・ヒジャウ社などは、パプア・ニューギニアや南米のブラジル、ガイアナなどに進出している。パプア・ニューギニアでは、サラワクの伐採会社がすでに伐採権の6割を手に入れたという情報もあり、今後熱帯林だけでなく針葉樹など原生林の破壊なども気にしなければならぬと思う。

《2002年国連環境総会へNGOの圧力を》

この6月の国連総会の前の会議では、リオ・サミットの時の「森林条約」から一歩も踏み出せず、ITTO(世界熱帯木材貿易機構)はGATTの自由貿易制度に毒され、林野庁は《自治体キャンペーン》について「貿易を阻害するものであれば問題」と言い始めている。とんでもないことだ。

2002年には国連環境特別総会が開かれるが、私たちは今後熱帯林だけでなく、

要ではないか。例えば

- ①原生林の伐採禁止・二次林の保全と利用制限、原生林を破壊したときの罰則
- ②原生林破壊のプランテーション、牧場開発、ダム建設等の禁止
- ③先住民族の権利確立——慣習的土地利用、土地保有制度の改革・自主管理の尊重
- ④各国の森林環境保護計画の策定——森林保護区の設定や荒地の森林回復
- ⑤拡大する自由貿易や債務の見直し——大幅な木材取引の禁止、GATTの撤廃、経済的自立困難民への助成
- ⑥各国の需要削減と消費構造の改革——総量削減計画、再利用の拡大、公正な環境価格の設定での削減
- ⑦建築工法の見直し——長持ちのする作り、社会的弱者へ配慮した建築、
- ⑧公共建築の見直し——公共工事の大幅削減、税制度の見直し

などが考えられる。ドイツのウッターバル研究所のF・シュミット・ブリークは、「資源面で世界経済を持続可能なものにするには、世界の消費量を50%削減、先進工業国では90%削減が必要」と言う。

《地域から熱帯林保護運動をもう一度》

世界レベルの問題もあるが、地域からもう一度熱帯林保護のウェーブを作らねばと思う。提案できても実効性のある行動に移すことが、今求められる。

そのために、いかに環境問題について興味を引き出し、熱帯林保護運動に参加してもらうかが、問われている。熱帯林市民会議に参加して、この会議は今後の役割が重要になるだろうと感じた。

「建設業等へのアンケート」

自治体・大規模建築部会責任者／西岡良夫

関西熱帯木材使用削減委員会・自治体大規模建築部会は、4月25日付けで、ゼネコンの170社（全国は大手1位から100社、関西70社）へアンケートを依頼。予想通り、自治体のアンケート回答率より随分低く、8月1日で全国35社、関西10社、合計44社の回答。質問の主な項目のまとめと、全国の手ゼネコンの問題点と自治体の関係とを速報！

《答—自治体等が熱帯材削減の指示すれば、大手9割のゼネコンは熱帯材不使用や努力をする》

Q1, 熱帯林破壊が進行しているのを社内で話題にされていますか。

イ、はい—29社(83%) 口、いいえ—5社
ハ、回答なし—1社

Q2, 建築業協会が92年に型枠を「5年で35%削減」方針を決めたのをご存知ですか。

イ、はい—31社(89%) 口、いいえ—3社
ハ、回答なし—1社

Q3-1, 熱帯材削減の具体的方針実施していますか。

イ、はい—19社(54%) 口、いいえ—7社
ハ、検討中—8社 二、回答なし—1社

Q8, 発注者や設計者と協力し、設計段階から熱帯材を含む型枠使用しない設計は可能か。

イ、はい—29社(83%) 口、いいえ—3社
ハ、回答なし—3社

Q10, 発注自治体で熱帯材使用削減の条件のあった自治体はどこですか。

18社に有（多数、東京都、大阪市、千葉県、90%の自治体からなど）
回答なし—17社

Q11, 自治体など施工段階から熱帯材不使用という条件が出されたら実施できますか。

イ、はい—11社(31%) 口、いいえ—1社
ハ、努力する—22社(63%)
二、回答なし—1社(3%)

Q15, 貴社は熱帯林保護に今後国や自治体に何を一番要望しますか。

- ①, 設計等から保全策明示—15社(40%)
- ②, 環境コスト等積算基準—15社
- ③, 保全策への税等の優遇措置—1社
- ④, 技術開発と普及への助成—3社(8%)
- ⑤, 情報提供—4社 ⑥, 要望なし—1社
回答なし—1社

この結果を見ると、ゼネコンは自治体から熱帯材の使用削減指示があったら、Q8, Q11の質問に9割近くが実施可能と答えている。だが自治体が削減条件を提示していないことが問題だ。熱帯材削減率は92年より平均23%と進んでいない。望むことはQ15のことだ。

《ゼネコンも少し環境対策を考えましたが...熱帯材削減未実施の企業が2割ある》

Q16, 将来、建築物等の着工件数が減っていくと予想されるが、貴社が一番必要と思われる対策は何ですか。

- ①経営見直し—6社 ②建替え推進—2社
- ③資材転換・廃棄物削減等の環境対策—10社
- ④耐久性高い建築物販売—3社 ⑤省エネ建築物の開発・販売—8社 ⑥その他—1社

Q17-1, 貴社は地球環境保全対策部門を持ち、保全策を実施されていますか。

イ、はい—23社(66%) 口、いいえ—11社

Q17-2, 実施の企業にお聞きします。何を実施されていますか。（複数可）

- ①熱帯材—14社(40%) ②地球温暖化—10社(29%)
- ③地球砂漠化—6社(17%) ④水質汚染—15社(43%)
- ⑤土壌汚染—11社(31%) ⑥建築物廃材・残土—24社(69%)
- ⑦その他(ダイオキシン等)—5社

Q19-1, ISO14000sを取得されましたか。

イ、はい—0社 口、いいえ—16社
ハ、検討中—15社

やっぱり国際標準化規格ISO14000sの取得はなかった。5年前ならゼネコンは、これらのアンケートにほとんど答えなかった。また、Q2の自らの建築業協会の方針も知らなかった。しかし、Q3-1のように、半数の企業しか熱帯材削減策を実施していない。これは自治体の指示がないと答えた企業もかなりあり、今後も各地の自治体キャンペーンが重要であると思われる。



①「炭焼き」の巻

H.ICHII 市井晴也

● 今号から3回にわたって、市井さんに書いていただきます。時間があれば、一度訪れてみたいのですが……

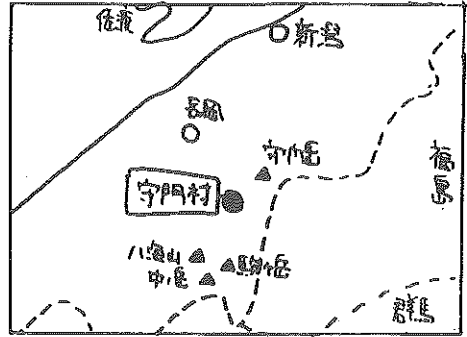
すもん

■守門村へ

東京から新潟の山村へ移り住んで2年半がたちました。ここ守門村は県内でも有数の木炭生産地また日本有数の豪雪地帯でもあります。初めての炭焼き、山仕事、田畑、家の修理、そして大雪、四季折々の喜びを味わいながら試行錯誤の生活をしています。うさぎ、狸、狐、とんび、いたち、カモシカ、ムササビ、サギ、鷺、ヤマセミ、セキレイ、鴨……、動物たちとの出会いもまだなお新鮮です。

「周りの自然に生かされながら、できる限り自給自足的な生活をしたい。」日本が南の国々の様々な犠牲の上にあぐらをかき続けていることを知るに従いそんな思いを強く抱くようになりました。サラワクの問題に関わり、現地の方と出会ったことから影響を受けました。サラワク材最大の浪費国ニッポンへ伐採の問題を訴えにきた先住民族。一緒に歩いていたときに彼らがゴミ捨場で指差したのはまだまだ使える熱帯材製品の数々。必死になって守ろうとしている「命の森」の成れの果て。そのときの彼らの表情は忘れられません。構造的なものを変えていくための運動が大切なのは言うまでもないけれど、一方で経済至上におぼれぬよう自給的に生活する人がひとりでも増えるのも重要なことではないだろうか。生きるための「力」みたいなものも身につけてみたい。結果は考えず「あとは実践するしかない」と追い込まれたような気持ちでもありました。

僕には新潟の山の中で自分で家をこしらえ、電気、ガス、水道のないところで20年以上独り暮らしをしていた炭焼きのじいちゃんがいました。あまり話したこともなかったのですが押し掛け弟子入りをしようと決意しました。ところがその矢先にじいちゃんは死んでしま



い、炭焼きが習えて田畑を借りれる所を求めて東京から北上することになりました。

「今では炭焼きだけでは食っていけない」という言葉ばかり耳にするなか新潟県に木炭協会があると知り訪ね、守門村を紹介されました。村役場を訪ねるとすっかり話ができてあがっていて、山の現場でも「後継者ができた」と師匠はすっかりその気になっていたのです。（その後師匠はお嫁さん候補まで見つけ、その親にまで話をしていたらしい。その時は二人で行くことが決まらなかったとはいえ、気の早い話ですよ。）

豪雪の過疎の村。若者は次々に大きな街へ出ていき農業や山仕事をやろうなんて人はいない。「こんなところへわざわざ来るのか」と驚かれ歓迎されました。僕としても人も自然もとても感じが良かったので迷わず決めたわけですが、格安の田畑付き借家まであつらえてもらい、炭焼きも森林組合の事業の通年雇用（日給月給）というできすぎた状況となりました。何より周りの人たちが喜んでくれていることが伝わってきて嬉しく感じました。地域の一長一短はありますが、よそ者への疎外感などは味わったことがありません。東京に居たときの重々しい気持ちとは別に今は山村の豊かさを感じながら暮らしています。

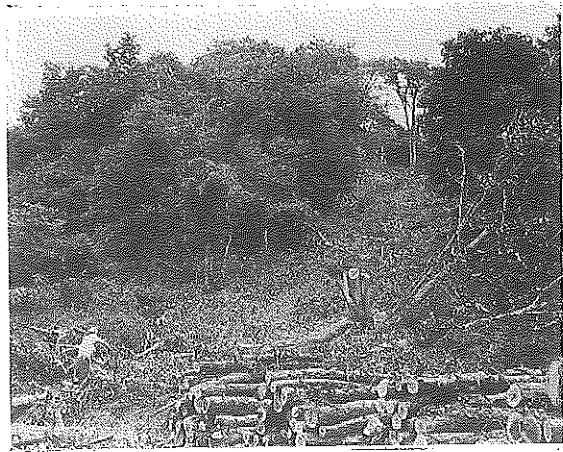
■炭焼き

守門村の中でも僻地と言われるここ福山部落ではかつて120戸のうち80戸までが炭焼きで現金収入を得ていたそうです。車もチェーンソーもない時代の炭焼きは並の労働力ではありません。炭材もできた炭も山道を背負って運ぶしかない。女衆でも1俵60キロを背負って峠を越えたそうです。冬にはソリを使ったそうですが、4～5mもの雪の上、数時間もかけてソリを引くのが楽なはずはありません。皮肉にも道路事情がよくなり機械文明も発達して炭焼きも過酷な労働ではなくなったときには誰も新たにやろうとはしない「儲からず疲れて汚れる仕事」になってしまいました。今、部落で個人で焼いているのは90戸のうちの6戸程。皆、じいちゃんばあちゃんです。ところがこの仕事、実は結構おもしろい。炭材や気温、湿度など同じことはなく、どれだけいい炭をより多く出せるか毎日が楽しみなのです。炭焼きの人たちは一様に「これで極めた、なんてことはねえんだがの」と言います。

森林組合でやっているのは黒炭で、白炭より火持ちは短く安価ですが火付きがよく一度に大量生産ができます。

まずは炭材集めで、これが一番難儀です。使う木のほとんどはナラです。下刈りから伐採、枝打ち、玉切り（一定の長さに切る）、一か所に集める（重機で長いまま先に集めることもある）、ワイヤーで束ねる、運搬という手順になります。山での仕事は気分のいいことも多いですが、アブ、ブヨ、蚊などの虫たちには閉口します。真夏の伐採後の炎天下の作業も「心地いい」などとは言ってもらえません。でもそれは木を伐ってしまった罰なので仕方ありません。

炭材には道路造成や植林地で放置されてしまうことになる木、河川に使う枝の束の為に伐られる木を利用します。採算の問題もあり炭焼きの為に山や木を買ったりすることはありません。が、使う炭材の量が多く広葉



植林地となるこの現場ではワイヤーを張り機械で丸太を引張り出した。

樹林破壊にも加担しているのは事実。燃料としての役目はあるものの、後ろめたさは拭いきれません。ちなみに炭の行き先は全国チェーンの焼き鳥屋。中国からの炭もかなり使っているようです。国内供給が足りなければ海外に依存するというのはどの業界でも同じですね。同じ森林破壊なら自分たちの目の届くところで行われているほうがまし、というところでしょうか。植林杉も健康に育てて上手に利用し長く使えば価値もあるはずなのですが。

窯に運んだ木で太いものは薪割り機と斧で割ります。曲がり、節、ねじれなどで割れない木はチェーンソーを使います。

揃えた木（二千本位でしょうか）を窯の奥から一本一本立っていっぱいにして出入り口をふさぎ、炊き口に火を入れます。初めの7～8時間火を入れれば3～5昼夜で焼き上がります。初めと終わりの半日位は煙突口と空気



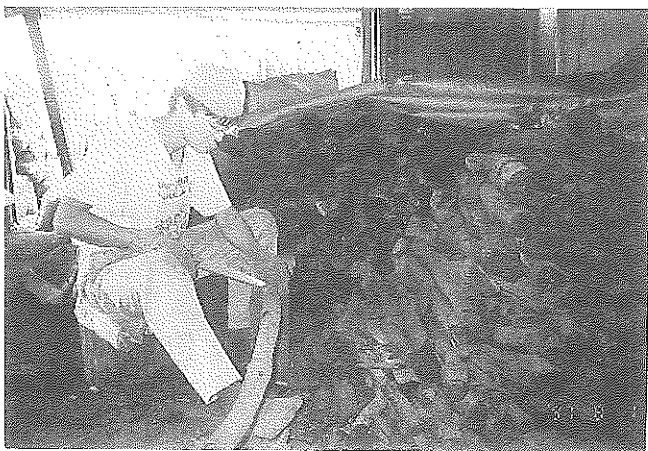
▲木割り。重いのは150kgを超える。指をはさみと痛い。

▼この2列の本でも一窯に少し足りない。



穴の調整をし最後は窯を密閉します。この最後の数時間が肝心で、おもしろいところです。早すぎれば木の部分が多く残ってしまい、焼きすぎれば灰になる率が増えます。煙の様子で判断しますが夜や風の強い日は判りにくくなります。あと何時間で窯が止まるかの読みは、—— たいていハズれます。

窯の中の火が完全に消える4日目以降に炭を出します。それでも窯の中は暑く、開けてすぐには80℃もあつたりします。炭は手ノコで切り揃え包装、出荷します。一窯で15kg詰めめの袋が140 俵前後出ます。これだけ大きい炭窯は珍しく、窯で一連の作業は2週間位かかります。例えば木割りや包装はそれぞれ4日位。必要になるのは“根気”。「ついこの間までこうやって毎日木を割り続けていた気がするんだがなあ」なんて思っちゃうわけです。それでも静かで空気も景色も上等の仕事場で、犬までお供にやりたいと思っていたことができるというのは何とも贅沢な話です。夕方5時半には家に帰れるのも魅力です。



▶袋の寸法に合わせて山灰を切る。鳥巢の穴も鳥巢黒け!

窯での仕事はおおよそ覚えましたが山での仕事はまだだ。この山で何窯の木が集められるか?一日の自分の仕事量は?などの見込みがつけられるようになったり、木を思う所へ倒せるようになるにはまだ時間がかかります。果たして、その時に村の炭焼きは何人残っているのでしょうか……。

次回は「百姓の巻」の予定です。



後ろに見えるのが炭窯。おとものマコ(め)娘(な)とぎよん(父)

実にシャイな奴だった。無口で、控えめで、つらい時ももくもくと彼は何かをこなした。1994年10月、サラワク・キャンペーン委員会(SCC)のスタッフだった彼が忽然と消えた。

ちょうど東京のサラワク・キャンペーン委員会が、「自治体キャンペーン」の全国的な繋がりを作って、フル回転し始めた頃だったので、事務局は前手だったろう。彼はSCCを一時はずれて、教員試験に取り組みたいと言っていた。

それからどのぐらいたったろうか。一通の手紙が私たちの家に舞いこんできた。『福山だより』。

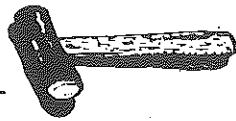
差出人は市井晴也さんからだ。

「新潟の山村の守門村で暮らし始めました」と、あつた。連れ合いと一緒に生活をはじめ、やっど地元の人々と関係が出来てきた、というふうに記されてあつた。都会を離れて、雪深い土地の生活をどうして選んだのだろうか。

私はまだ彼のところを訪れたことがないが、彼の生活に魅かれたのだ。電話したら、とても明るい元気がいつも通りの声だった。炭焼きから帰ってきたのだと言う。私は、「夏でも炭焼きしてるんか」と驚いてしまった。

◆西岡良夫◆

「家具」のお話



◎ その6 「ちゃんと作った家具は強い！」

200・別注家具製作・永く田健一

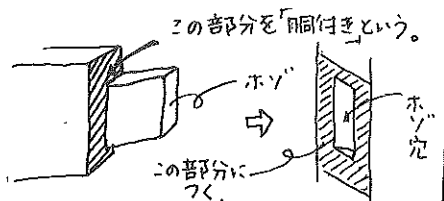
先日、TVを観ていたNHKで技能五輪「1000分の1ミリへの挑戦」というドキュメントがあった。工業製品の職人技をきょう世界大会です。溶接から精密組立など色々な部門があり日本も参加していた。60年代から各部門でメダルを独占していた日本も80年をすぎると職人がロボットに変わったり、工場の海外運出もあいつてメダルは台湾、韓国、オーストラリアなどにもっていかれている。

いろんなところで職人がいなくなってしまうと思ってはいたがもう身近なところにきていると改めて感じたのでした。

さて、家具はデザイン、機能も大事だが、いかにしっかり組立てられているか、長持ちするかをちゃんと考えていかなあきません。

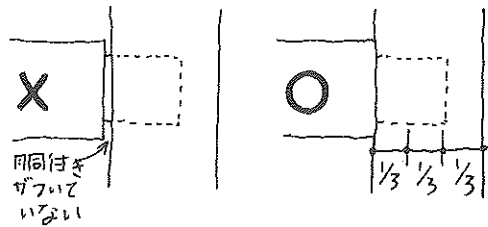
高い価格の分、家と同じように代々つがえることこそ大事です。

私はよく家具をみるとき各部分の「胴付き(どうぶき)」がしっかりついているかをよくみます。



加工がちゃんとこなされている部材はしっかりはまると強く、しごもきれいにすきまなく納まります。

職人の技が見えるところです。



「胴付き」がついていないと見ばえも悪く強度にも問題が出てきます。又、木のそりやカガみによってもすきまがあくこともあります。あついで加工による無理な組立も原因でしょう。

一度、マンションに住む知人宅に納めた食器棚の背側のボツがはずれてしまっていると連絡があり、あつて行ってみるとビックリ！ 食器棚を動かして裏をみってみると背板がマンション特有の結露で水でぬらしたようにベチャベチャ、クロス張りの壁にもびっしりとカビがはえていました。水分によって背板がボツをひきははずしてしまったのです。現代の住まいとは家具にも悪い環境なんですね。

こんな時にも無垢の木をつかった家具は修理できますが、合板だらけの家具だったら合板が水分でふよふよになってダメだったでしょう。


壁との間に十分すきまをとつて修理した食器棚をおいてきました。

皆さん家具を買うときは引出しの中や、内側をしっかりと見ましょう。

エエかげんなものは一目でわかります。

店の人にはいやがられますが……

[つづく]

 HUTAN
ワークタンへの^{トキ}お便りから……
(一部略・敬称略)

×いつもごくろうさまです。会誌興味深く拝読しています。

大阪市 一鷹要市
*ワークタンらしい楽しいパーティをありがとう“運動の目的のためにこそ手段を選ぶ”ことが大切。巨大なテーマに臆することなく、“地球も自らも気持ちよくなる”生き方を今後とも提起しつづけてください!

豊中市 坂本 洋

.....
[会費・カンパをいただいた方] (敬称略) 97.5.12まで
足立節男 一鷹要市 大東弘 小浜崇宏 進藤みゆき 伴正巳 藤
岡正雄 水田哲生 宮沢朔子 山中浩一 地球の友金沢(三国) 横見幸
子 蓮原耕二 和田善行

[裏返し封筒をいただいた方]

☆ワークタン十周年記念パーティで、たくさんの裏返し封筒をくださった方、ありがとうございます。どなたかわからなくなってしまって、ごめんなさい。さっそく、サラワク先住民逮捕への抗議はがきを会員さんにお送りするときに役立ちました。

☆「リサイクルふうとうです。少しですが、お役にたてたら、うれしいです。週に半分は、畑に通ってるわたくし。道物たちは、友達のような気持ちです。友達を大切に思う気持ち、活動を大切にしていきたいです」
氏家富美子

春日美恵子、青木恵美子のおふた方からもいただきました。

お忙しいなか、手間をかけてのリサイクル、ありがとうございます!
また、パーティでは沢山のカンパをありがとうございます。

[ニュース]

大阪府箕面市の『地球雑貨』(0727-22-8716)という
お店でワークタンの絵はがきやTシャツが買えます。ごひいきに!

.....
[よんでみませんか?]

『森と魚と激戦地』清水靖子 北斗出版

「バブアニューギニアとソロモン諸島の森を守る会」のファイトウーマン・シスター清水の本です。

正直、読むのがつらい本です。

善良な島の人々を、日本軍がどんなに苦しめたか、そして、今も私たちがどんな目にあわせているか。…たとえば、放射性廃棄物の捨て場にしようとして、「廃棄物を抱いても安全」(!)などと、科学技術庁長官が恥ずかしげもなく言ったとか…。(そんなら日本海に捨てたら?)

日本はこの森も大量に消費しています。

島の人の善良さや、こっそり耳打ちして島民を虐殺から救った日本兵やドイツ人の存在に、救われます。

・GOODSその巻……10周年記念

ポストカードセット

【写真カラー／7種各1枚計7枚セット
／500円】

ウータンお馴染み環境ライター・
峠隆一さんの写真から、選りすぐりの
サラワク先住民族の写真を7種類、
写真絵はがきにしました。
季節のご挨拶にも使えるすぐれもの、
ぜひ一家に最低一セットのご購入を！！



・GOODSその式……大好評 **Tシャツ！！**

【絵柄2種、印刷カラー／色白、グレー／サイズM、L
1枚2500円】

「ウータンのTシャツはオシャレだぞ」という好評の声に、特に人気の
絵柄2つをリニューアルしました。「All Important Liff」（ウータン
紹介リーフレットの扉絵と同じ）と永田画伯のシロテテナガザル（『ウ
ータン・森の通信』号表紙）。どちらも白とグレーがあります。2種×
2色の計4種類、お選びください。

《お申し込みの方法》

- ・ウータンは専従（常駐）のいない、ボランティアスタッフのみのNGOです。多くても週1回程度しか、スタッフが事務所へ作業に行けません（それも仕事の後、つまり夕刻のみです）。その点ご考慮の上、お申し込みください。
上記の理由から、現金書留や金券等での郵送はご遠慮ください。全て郵便振替のみの受け付けとなります。お問い合わせ等も郵便にてお願いします。また、お品のご到着も、恐れ入りますがお申し込み後約1ヵ月位をメドにお待ちくださいますようお願いいたします。
- ・なお、価格は全て送料別の値段です。お品代に送料を添えて、お申し込みください。
 - ▷ハガキセットの送料は以下の通りです。
1セット…90円／2セット…190円／3～6セット…270円
 - ▷Tシャツの送料は以下の通りです。
1枚……（270）円／2枚……（390）円／3枚～4枚700円
- ・ご送付先、ご希望の点数、Tシャツは絵柄名と色、サイズを忘れずお書き添えの上、下記の郵便振替へお振込ください。

00930-4-3880 ウータン・森と生活を考える会

HUTAN ACTION SCHEDULE

● サラワフ スタディツアー 報告会 ●

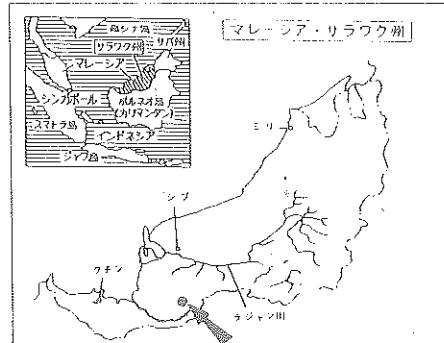
熱いなごけに立けたせ
サラワフ!!
SARAWAK

【とき】 10月4日(土) 午後6:00より

【場】 アピオ大阪 [Tel. 06-944-6331]

● 8/8～17までイバン族の村、ルマ・レンガンに滞在、
村人とともに暮らしたようすをスライドをまじえて報告します。どうぞお越し下さい。

【報告者】 荒川英生(楽画セミナーハウス)、荒木琢磨(ウータン)他……



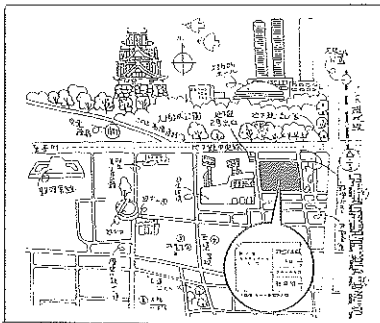
ルマ・レンガン村(イバン族)

関西熱帯木材使用削減委員会・報告会

10月26日(日)

熱帯林を守るために

～日本の公共建築・住宅・家具を問う～



J R : 大阪環状線「森ノ宮」下車すぐ
地下鉄 : 中央線「森ノ宮」2号出口右手後ろすぐ

【時】 10月26日(日) 午後1時～4時 【参加費】 500円

【場所】 アピオ大阪 ☎06(941)6331
JR森ノ宮駅下車徒歩2分

□ 講演『世界の森林破壊と日本の課題』
◎ 熊崎美氏(筑波大教授)

□ 各部会からの報告 I. 自治体大規模建築部会
II. 家具部会
III. 住宅部会

◆ 関西熱帯木材使用削減委員会 ☎078-851-2760



ウータン・森と生活を考える会

【OFFICE】 〒530 大阪市北区中崎西1-6-36
サクラビル新館308
「関西市民連合」気付
Tel.06-372-1561

【一部】300円 【年会費】3000円

【郵便振替】00930-4-3880

◎ 購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。